

## 北海道新幹線開業に向けた函館市の取り組み

H26. 9. 24

函館市新幹線対策室

## 【推進組織】

## ・ 北海道新幹線新函館開業対策推進機構の設置

設置日：平成21年5月20日

体制：函館商工会議所，函館市，函館国際観光コンベンション協会等

目的：開業効果を最大限生かし、観光をはじめとする地域産業などの振興を図り、地域の発展のために必要な事項を策定した「北海道新幹線開業はこだて活性化アクションプラン」を推進

## 【二次交通等】

## ・ 新駅・現駅間の鉄道アクセスの充実に向けた取り組み（JR北海道）

函館線五稜郭・渡島大野間の電化工事概要

工事区間：函館線五稜郭・渡島大野間14.5km

電化方式：交流2万ボルト（函館線函館・五稜郭間は交流2万ボルトで電化済）

総工事費：約18億円

工期：平成25年3月～平成27年度（新幹線開業前）

所要時間：快速で約17分（約8分短縮）程度となる見込み

※ 利用者の利便性や快適性が確保された車両の導入について要望を実施



## ・ 青函共用走行問題の早期解決に向けた取り組み

青函トンネル区間（5.4km）を含む8.2km区間は、新幹線開業後は貨物列車と共用走行する区間となり、高速でのすれ違いなどの諸問題については、国で設置するワーキンググループより、平成30年春から1日1往復の新幹線の高速走行の実現を目指すこととする当面の方針が示されたが、新幹線の持つ高速性を最大限に発揮するためにも、抜本的な解決が求められることから要望を実施

※平成26年4月 「青函共用走行区間高速走行早期実現協議会」設立（事務局：道・青森県）

## ・ 北海道新幹線の並行在来線に対する取り組み

北海道新幹線の開業に伴い、JR北海道から経営分離される並行在来線の江差線（五稜郭・木古内間）を、地域の公共交通機関として存続維持するため、北海道と沿線市町（函館市・北斗市・木古内町）により「道南地域（五稜郭・木古内間）第三セクター鉄道開業準備協議会」を組織し、新幹線開業時の第三セクター鉄道開業に向け協議

※ 平成26年8月 三セク鉄道会社「北海道道南地域並行在来線準備株式会社」設立（平成26年度中に鉄道事業許可を国土交通省へ申請予定）

- ・ 函館新外環状道路の整備（国土交通省）

本路線は、北海道縦貫自動車道や函館・江差自動車道、国道5号函館新道と一体となって、高速交通ネットワークを形成するとともに、北海道新幹線と函館空港とを結ぶことにより、道内各都市圏との連携を強化するために重要な路線  
赤川IC 供用予定：平成26年度（日吉IC 供用予定：平成28年度以降）  
函館IC～函館空港所要時間：現在約29分が完成後約9分（約20分の短縮）

【観光振興・開業PR】

- ・ 函館市ロゴマークの作成・活用

公表：平成25年7月

概要：デザインを公募し国内外から753点の応募があり、函館市の「函」の字と笑顔のイメージを組み合わせたものを採用

展開：ポスターやパンフレットのほか、市職員や観光関係者らが着けるピンバッジなど  
平成26年4月から農産物・加工品の商業利用にも拡大



- ・ 観光情報サイト「はこぶら」の開設

開設：平成20年12月1日

目的：観光客にとって有益な情報を発信し、函館での滞在期間の満足度向上や来函を動機づけ

企画・運営：地元企業に委託

（別に観光関係団体16団体で構成する「はこぶら運営委員会」を設置）

特徴：日本語を含め11言語に対応、スマートフォン専用サイトの作成  
トップページには、新函館北斗開業に向けたカウントダウン表示あり  
また、平成26年6月から新幹線特設サイトを新たに開設し、各種情報を発信

- ・ はこだてグルメサーカスの開催

開催日：平成26年9月6日（土）～7日（日）（H24から実施）

目的：新幹線開業を見据え、中心市街地の活性化と広域からの観光客誘致

出展数：約110店

来場者数：16万9千人（平成26年度：2日間計・実行委員会発表）

- ・ プロモーションの展開

概要：国内外からの誘客を図るため、トップセールスを含めた各種プロモーションを展開  
主な内容：①北関東および南東北等をターゲットにした函館キャンペーン

②JR東日本と連携した青森県・函館エリアへの誘客と広域観光の活性化を図る青森県・函館冬期観光キャンペーン

③市内のホテル・旅館業者と連携し、修学旅行誘致に向け東北地域の小・中学校や旅行業者を訪問

【まちづくり】

- ・ 中心市街地活性化に関する取り組み

函館市中心市街地活性化基本計画

計画期間：平成25～29年度

計画区域：現函館駅前・大門地区～本町・五稜郭・梁川地区（約200ha）

計画事業：函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業（WAKOビル）、グリーンプラザ整備事業、はこだておもしろ館整備事業、観光センター整備事業、函館本町地区優良建築物等整備事業（旧グルメシティ五稜郭店の再開発）など

- ・ 函館アリーナ整備事業の実施

開館予定：平成27年8月

概算事業費：75億円超（見込み）

施設概要：メインアリーナ～規模2,860㎡，固定2,120席（収容人数5,000人）

サブアリーナ～規模1,000㎡，固定208席（収容人数1,044人）

その他の施設～武道館，多目的会議室，スタジオ

- ・ 函館フットボールパーク整備事業の実施

供用開始予定：平成27年8月（供用期間：3～12月）

概算事業費：約15億円

施設概要：サッカー・ラグビー兼用コート2面，フットサルコート3面，ナイター照明



（函館アリーナ完成イメージ）



（函館フットボールパーク完成イメージ）

### 【広域連携】

- ・ 青函圏観光都市会議

設立：平成25年3月30日

構成：青森市・弘前市・八戸市・函館市

目的：4市の広域連携によって広域観光エリアを形成し，その観光の魅力の増進により，国際競争力を高め，内外からの観光旅客の来訪及び滞在を促進

事務局：函館市観光部観光振興課

内容：PR媒体の作成

効果的なプロモーションの創出

滞在化を促す仕組みやキャンペーンの構築



- ・ 函館・みなみ北海道グルメパーク

開催：平成23年度～（年1回）

会場：東北新幹線沿線（仙台・大宮等）

目的：北海道新幹線開業PR

内容：函館・みなみ北海道および東北の「食・観光」の魅力発信

来場者：約65,000人（平成25年度・仙台市）

※平成26年度は10月18日（土）～19日（日）に大宮で開催予定



- ・ 函館・東北チャリティープロモーション

開催：平成23年度～（年1回）

会場：札幌大通公園8丁目

目的：東日本大震災の復興支援とともに，函館市が東北と北海道の架け橋としての役割を果たしながら，観光をはじめとする交流を深める

内容：函館・みなみ北海道および東北の「食・観光」の魅力発信

来場者：約64,000人（平成26年度）

※平成26年度は6月21日（土）～22日（日）に開催